

# スウェーデンとの学校交流

## 北方圏センター 交流部

昨年11月、東スウェーデン地区地域連合の国際コーディネーター、ウラカーリンさんなど4人の教育関係者が北海道を訪れ、その模様は、本誌「春号」で紹介済みであるが、この度、これに関連し新たな動きがあったので、簡単に紹介したい。

### 1 学校法人常松学園札幌工科 専門学校 学生受入

同校は、昨年11月スウェーデンの教育関係者が訪問した専門学校2校のうちの一つであり、その際、スウェーデン側は、翌年春にも教員1名、学生1名を派遣したいとの希望を述べるなど、積極的な発言が目を引いた。これに対し同校では、受け入れる場合の来道時期、授業料、宿舍などの状況を説明するとともに、具体的なことはメールで打ち合わせをしていくということになった。



来道した2名の研修生

今春、ナチュールブルークス高校から、教師1名、生徒1名を5月に派遣したいとの依頼が寄せられ、学内で検討の結果、環境緑地工学科で5月13日から5月24日までの訪問を受け入れることになった。ところが、期日も迫ってきたころ、先方から、予定していた教師がいけなくなり女子生徒のみ2名で北海道に行くことになったのでよろしくとの連絡が入った。いまさらどうということもできないので、カリキュラムや文化体験などのメニューを整え、無事の到着を待つこととなった。そして、5月13日、中部空港経由で新千歳空港到着し、北海道の土を踏んだ。

### ① 学生との交流!!

今回はるばるやってきたのは、エマとイダの二人。学内で開いた交流会では、自分の国、学校、家庭などについて説明した。また、お土産に



竹で垣根を組む

持ってきてくれたスウェーデンのお菓子をみんなで楽しんだ。細い紐のような形のあめは少し辛く、今までみんなが食べたことがないような味であった。お互いに質問し合い、交流し、しり上がりに盛り上がっていた。

### ② 園芸・造園の学習

研修生の二人は、園芸の勉強をしていて、日本の盆栽にとても興味があり、このことで来道することになったようである。授業で学生と一緒に実習したり、さつき展やえこりん村なども見学し、盆栽をじっくり観察し、写真もたくさんとった。また、学校近くのモエレ沼公園に学生と一緒に行き、好天にも恵まれて少しリフレッシュできた。

### ③ 日本文化体験

まずは茶道体験! 研修生は着物を着られたのも嬉しかったようである。長時間の正座も苦にせず予定の時間はあっという間に経ってしまった。

次は職員の自宅に招かれて「すきやき」体験。のりやご飯などの日



日本文化体験

本食に慣れずにいた二人は、すきやきは、*delicious*でした。ただ、生卵につけて食べるのには驚いていました。

・最後は、生け花、通訳の方に教わり、生けた花は学校の玄関ロビーに飾った。

④ おわかれ  
最終日、学生たちは手作りの写真集を制作しプレゼント。帰国セレモ

ニーでは、時間を惜しみながら、メールアドレスの交換、練香火花などを楽しみ、「日本に来てよかった！また必ず来るね！」とあって別れを告げた。

理事長を中心に、先生方の完璧なまでに用意されたプログラムと安全配慮に感謝。「1」の部分は、同校訪問及び同校ホームページ (<http://www.sapporo-kouka.ac.jp>) などから

まとめたものである。

## 2 北海道おといねっぶ美術工芸高等学校のスウェーデン訪問

当校は、国際理解教育を本格的に推進するにあたり、スウェーデンのレクサンド高校へ生徒2名を派遣した。同時に、これからの本校との連携の在り方やスウェーデンの教育を視察するため教員2名も同行した。滞在期間は5月17日～31日の15日間であった。

生徒は、レクサンド高校の木工科で実習するとともに、レクサンド市内の手工芸学校やダーラナ地方の美術館なども視察し、大きな成果を上げることができた。宿泊は、昨年度本校で研修したレクサンド高校の生徒の家でのホームステイということもあり、再会を喜ぶとともに、国際交流を図る有意義な機会となった。

先生たちは、レクサンド高校の他に、バルデマシユビークにあるカール・マルムステン工芸高校、リンシヨピング近くのミヨールビイ高校も視察した。カール・マルムステン工芸高校は、ヨーロッパでもトップクラスの工芸教育が行われており、家具王国スウェーデンらしい技術の

高さが印象に残った。また、ミヨールビイ高校は、市内に日本企業が進出していることもあり、日本への高い関心を感じた。どこの高校に行っても温かく歓迎され、感謝の気持ちで一杯になった。このことは、これまでの北海道とスウェーデンの国際交流が築いてきたものであると感じた。

また、レクサンド高校では、日本文化や教育を紹介する機会を与えてもらい、生徒と教員によるプレゼンテーションを行った。参加者数が心配されたが、レクサンド高校の生徒、教員、地域の方々がたくさん参加してくれた。生徒の浴衣姿は特に注目を集めていた。

カール・マルムステン工芸高校への訪問は、地域のマスコミの関心も高く、多くの質問を受けた。この高校は『北海道スタイル2006』の会場の一つになったこともあり、日本の技術を高く評価していた。職員室には日本の鉋などの工具や家具の本も置いてあり、訪問団のプレゼンテーションにも大きな反応があった。

スウェーデンの人たちは、優しく人情味がある。自然や環境を守り、古いものを大切にしながら、音楽や



レクサンド市の皆さんと



教室での交流 ▼

この2つの例を見ても、北海道とスウェーデンとの間で、この数年間、着実に一歩ずつ交流が進んでいることがうかがえる。さらに、今秋にも、スウェーデンで開発されたアウトドア教育に関する教育者向けプログラム研修が北海道で行われるとの話も聞こえている。

美術を愛する姿から、日本人は多くのことを学ぶことができると感じた。特にこれからの北海道の発展のためには、スウェーデンとの交流が大切であるとの強い印象を持った。  
〔2〕の部分は、この訪問に同行した石塚校長先生からの情報提供によりまとめたものである。



## KYOWA PRINTING

質の高い「ビジュアル・コミュニケーション」をささえる商業印刷専門企業——



企業と生活者を結ぶ

**協和印刷株式会社**

〒063-0834 札幌市西区発寒14条14丁目2番50号  
TEL (011)666-1641・FAX (011)669-2332